

第1回 第5次加西市総合計画審議会 会議録

日 時：平成22年10月20日（水）

14：00～15：30

場 所：加西市健康福祉会館 2階研修室

【次 第】

開会

1. 市長あいさつ
2. 会長・副会長の選出
3. 諮問書の提出
4. 協議事項
 - ① 総合計画策定の経緯について
 - ② 基本目標と政策の体系について
 - ③ 将来人口について
 - ④ 土地利用構想について
5. その他

閉会

【会議録】

開会

1. 市長あいさつ

市 長：みなさん、こんにちは。本日はご多忙のところ、加西市総合計画審議会にご出席いただきありがとうございます。加西市では、先週は北条鉄道の子ザル駅長の件、今度は市役所業務の包括委託に関することが報道されると思います。さて、加西市の10年先を思い描いて、総合計画を策定するわけですが、今日を迎えるまでにやってきたことを申しますと、庁内のプロジェクトチームによる職員自らの検討、市内の各種団体からの意見、4回に渡るワークショップを開催し、市民の皆様からもご意見をいただいています。その後、検討委員会を3回開催しまして、本日を迎えています。総合計画はどこの自治体でも共通するようなものはいけません。加西市ならではの、加西市のすべてを知り尽くした、加西の資源を最大限に活用し、外部の力も取り入れた計画としていってほしいと思います。私からは2点お願いがあります。一つ目は、市民が読んでもわか

りやすい、具体的な内容で将来に向けてのビジョンや夢が語られている計画であること。二つ目は、市民や民間の力を借りて、多少大きな夢であっても背伸びして必死に頑張れば実現可能である、手が届く計画としてください。立派で総花的につくって、書棚に置いてあるようではだめです。いつもそれを市役所の業務のよりどころとすること、また、市民の皆様にも夢を共有していただけるような総合計画になることが私の願いであります。

事務局：本日ご出席いただいている方について、本来ならばお一人ずつご紹介させて頂くところですが、時間の都合上、お手元の会議次第5ページをご確認いただくことで代えさせていただきます。

→委員紹介（27名中6名欠席）

2. 会長・副会長の選出

事務局：加西市総合計画審議会設置要綱に基づきまして、委員の互選により、会長、副会長を選出することになっております。どなたか立候補又はご推薦いただけませんかでしょうか。ご立候補及びご推薦が無いようですので、事務局から会長、副会長を提案させていただきたいと思いますがご異議はございませんか。

委員：異議なし

事務局：ご異議が無いようですので、財団法人 地域開発研究所 牧瀬 稔様に会長を、財団法人 松下政経塾 政経研究所 所長 金子委員に副会長を推薦させていただきたいと存じます。牧瀬会長のご紹介をさせていただきます。法政大学大学院博士課程人間社会研究科を修了され、横須賀市都市政策研究所、(財)日本都市センター研究室を経て(財)地域開発研究所研究部に勤務されています。また、法政大学社会学部・現代福祉学部兼任講師、法政大学大学院政策科学研究科兼任講師、東京農業大学国際食料情報学部非常勤講師を兼ねられ、公的活動としては、内閣府「『家族・地域のきずな』の取り組みに関する研究会」委員、横須賀市「市民安全条例検討委員会」副委員長、新宿自治創造研究所政策形成アドバイザーなど多方面にご活躍されています。牧瀬会長、一言ごあいさつをお願いいたします。

会長：ただいま会長を拝命いたしました、財団法人地域開発研究所の牧瀬でございます。簡単に自己紹介をいたしますと政策づくりが専門です。今年度は春日部市役所、埼玉県庁、新宿区役所等に関わっております。そのような経験を今回の計画にも活かしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

事務局：ありがとうございました。続きまして、金子副会長をご紹介します。早稲田大学を卒業後、松下政経塾に入塾、松下幸之助氏の経営哲学を学ばれ、現在、松下政経塾の政経研究所所長に就任されています。また、有限会社オフィスロンドを設立、代表取締役役に就任され、中部大学非常勤講師、NPO 法人文化公益協会理事長、中国社会科学院日中社会文化研究センター客員教授など兼ねられています。さらに映画とオペラ音楽の講演、評論活動など多数の著書があり、非常に幅広いご活躍をされています。それでは金子副会長、ご挨拶を頂戴いたします。

副会長：ただいまご紹介をいただきました松下政経塾の金子でございます。おそらく私に加西市に呼ばれたのは、先ほど市長がおっしゃられました、他の自治体がない、オンリーのものを打ち出していきたいということだと思います。松下政経塾で、塾のOBの国会議員、市長等と政策形成のレベルアップをしようということで常に議論しているのは、そのまちのよさを発見し、活かしていくことです。今ほど基礎的自治体の能力が求められている時代はありません。そんな中で加西市の挑戦に拍手を送りたいと思います。どうぞ皆様よろしく申し上げます。

事務局：ありがとうございました。

3. 諮問書の提出

事務局：つづきまして当審議会に対し、市長から諮問を行います。

→市長より諮問

4. 協議事項

事務局：ここから議事進行を牧瀬会長にお願いすることになります。牧瀬会長よろしくお願いたします。

会長：皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご協力のほどよろしくお願いたします。まず、協議事項の①総合計画策定の経緯について事務局より説明をお願いします。

→事務局より資料説明

会長：ただいまの事務局の説明についてご質問ご意見等はございませんか。私から一つ質問します。総合計画策定の流れについて、図では、審議会から議会へとい

う流れとなっていますが、一旦市長に返すということによいでしょうか。

事務局：その通りです。

副会長：市民アンケートの母数はどれくらいですか。

事務局：2,500通を配布し、1,101通を回収しており、回収率は44%です。

副会長：回収率が高いですね。男女比、年齢比等はどうなっていますか。

事務局：男性が43%、女性が53%です。年齢では50～59歳が最も高く23%、次に60～64歳、40～49歳となっており、半分近くが50～65歳が占めています。20代未満は3%、20代は10%、30代は16%となっています。

委員：市民アンケートはどんな内容ですか。

事務局：現在住んでいる所に住み続けたいかどうか、加西市の良い所、改善すべき所はどこかというようなことを教育や環境といったテーマごとに質問しています。

委員：加西市では、若い人が市内に定着していません。中学生・高校生に意見を聞く、また加西市から外に出られた方の意見を聞く事ができればと思います。

会長：戸田市では引っ越した人にアンケートを行っています。1,000人を対象として、400人回収しています。なぜ出て行ったかを把握することも重要です。

委員：グループインタビューは興味深いです。市の職員の方がヒアリングされたのでしょうか。また、それは母数の2,500件に含まれるのでしょうか。

事務局：市職員が行いました。2,500件には含まれていません。合計10団体・グループを対象にしています。

委員：児童は対象となっていますか。

事務局：幼児と一緒に参加されている親子のグループ、ダンスをしている中高生のグループ、成人式の実行委員等に行っています。青少年連絡協議会にも若い人がいます。

委員：ビジョンや夢など、どんな加西市をつくりたいかということが重要だと思います。市民アンケートではどんな意見がでていたのでしょうか。

事務局：直接その質問へのお答えにはなっていないかもしれませんが、自由記述では、あなたが市長になったら一番にしたいことは何ですかということ聞いています。

会長：他に質問がなければ、次に②基本目標と政策体系について、事務局からの説明を求めます。よろしくお願いします。

→事務局より資料説明

会長：ただいまの事務局の説明についてご質問ご意見等はございませんか。

副会長：7ページのまちづくりの主な課題について、どれが特に強い意見なのか。

事務局：実際には、もっとたくさん意見をいただいております、その中からまとめています。特に順序はつけていません。

会長：5ページの(4)に「地域主権の時代」とありますが、これは民主党の言葉なので、この言葉を使うのはどうでしょうか。主権は国民にあるので「地域主権」という言葉は憲法違反では、という議論もあります。委員の皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。また、10ページにスローガンが書いてあります。「加西ならではの」とありますが、市民一人ずつ意見があって、一人ずつ捉え方が違うと思います。もっと具体的にすべきではないでしょうか。私は外から来ているので「加西ならではの」というイメージがわかりません。委員の皆さんいかがでしょうか。加西市民の方に「加西ならでは」というのは何かお聞きしたいと思います。

委員：言葉の意味はわかりますが、表現は考えた方がよいと思います。どう変えたらよいかはわかりませんが。

市長：「加西ならではの」という言葉が観念的すぎるので、総合計画として謳う以上は、みんなが共有できる表現がよいと思います。

委員：こんな言葉に変えたらという意見を委員の皆さんから出してもらったらよいと思います。

委員：イメージのことなので、一人ひとり違っており、難しいと思います。反対に外から見た場合にはどうでしょうか。

副会長：第4次計画を読ませていただき、10年前に書かれていることが活かされていないと感じました。農業を中心としたまちづくり、農業と環境が一緒になっていますが、そのあたりが加西市の切り口になると思います。加西市は食べ物が美味しいので、それをどうやって打ち出していくかが課題です。他市では、コウノトリのまちや有機の里で売り出しています。農業と環境を結び付けてはどうでしょうか。農産物がキーになると思いますが、恵まれているのに資源が活かされていないという気がします。

委員：若い人は大きくなったら外に出てしまい帰ってこない状況です。就職先が少なく、農業だけでは実際は食べていけません。加西市には地場産業がないことで、新しい産業が参入しており、三洋電機のソーラーなどいろいろなものが集まっています。そのため、所得も高くなっています。都会で働くよりは給料が安いですが、土地も安く、水もきれい。豊かな生活ができることをアピールしていけばよいと思います。都会で給料が高くて、くたくたになるまで働くのがいのかということをお教示いただければと思います。加西の持っているよさを考えて投資していくのがよいのではないのでしょうか。

教育長：加西市は兵庫県の中心にあるため、但馬以外なら県内どこへでも通勤できるということもよいところだと思います。

委員：教育、病院、子どもをよい学校に行かせたいという思いがあると思います。トータルで伝えていかないと住んでもらえないと思います。

委員：コウノトリについて2年間仕事をしていました。コウノトリは金看板であり、野生復帰を図るためには、安全・安心、環境に配慮した作り方、商業的にも販売戦略をとっています。土木や観光も一緒です。コウノトリが住めるという環境という金看板となっています。

委員：「加西ならではの」ということでは、環境問題に力を入れています。また、子どもの夢が都会に向いていると思います。

委員：加西市の芯はなんでしょうか。言い換えればアイデンティティ。アイデンティティの具体例を提示してもらえますか。

委員：やさしい「人」だと思います。私は加西が嫌いで、高校を出て、そのまま加西を出ていました。子育ての途中で戻ってきたときに、私自身が加西を好きにならなければ子育てができないと思いました。当時、永田萌さんが「田園都市加西」と話していてそれが好きでした。言葉としても好きだし、永田さんが描くものも好きでした。この方が描く水は海でも川でもなくため池と言われていません。そういうものも資源になりませんか。

委員：大きな資源だと思います。それから今のままでは人口は減ってしまいますので人口を減らさないように政策を打たないといけません。加西市の悪いところは閉鎖的・保守的と言われているので、なかなか人口は増えないと思います。

委員：夢を語るなら、細かい事ではなく、私は「人」ではないかと思います。

教育長：ある人は「加西の風景は私の原点だ」と言っています。そういう意味で加西市はどこにもない素敵な風景があると言えます。ある歴史家に尋ねたとき「加西は宝の宝庫だ、しかしへそがない」。何を意味するかということと中心となるものがないということだと思います。同じ加西に住みながら加西のすばらしさを知らない人が多い。今まで何をやってきたのだろうか考えさせられました

市長：5年半の間、環境と景観のまちづくりに取り組んできました。これからめざすところは「いやし」「やすらぎ」を感じるまちにしようと思っています。満足度をあげながら新しいライフスタイルが実現できて心豊かなまちにしていきたいと思っています。

委員：人口減少傾向、少子高齢化の中で年齢構造からいうと逆ピラミッドのままいくのか、正規の形をめざすのか、どちらか決めて話を進めていった方がいいと思います。

委員：田舎では、どんどん人口が減っていています。人口が減らないような政策を打たないといけません。例えば行事をしたときに人がたくさん集まりますがそのときに行政はアピールしてくれていない。また他所から来た人たちに対して冷たい。私なら「一杯行こう」となるが居場所を用意していないのではないのでしょうか。

教 育 長：移り住んできた若い人と話す機会があったのですが、小野市と比較すると、産婦人科、小児科、水道料金、医療費が中3までといったことの違いを挙げていました。また例えば5万円で住んでいた人が中町（現多可町）の3万円の場所に移り住み、浮いた2万円を使い、いい食べ物を買って暮らすなんてことができます。このように具体的な提案が必要だと思います。

委 員：策定の流れを説明してもらい、本日の資料は、そこから集約したものだと思いますが、委員の皆さんからも随分いろいろなご意見をいただいています。その中で、11 ページにみられるような上部構造はわかりますが、下部構造がわかりにくい。10 ページで30年前から10年前そして現在の変遷がありますが、加西の人口なり土地利用なりの、環境容量キャパシティがどの程度あるのかわかりにくい。人口と土地利用についてはエコロジカルフットプリント分析などが合致するところですが、生態系で雨がどれくらい降ったのか、二酸化炭素をどれだけ吸収するのか、飲料水の供給能力があるか、ゴミの処分の能力があるのかなど環境容量をみてみないとはいけません。加西市の生活のベースになる部分に着目してはどうですか。日本全体として貿易・産業・交通・住宅などあらゆることを踏まえると、現状では国土の2.7倍の環境容量が存在しています。それを加西に落とし込んだ時に、環境容量が釣り合っているのかどうか。そしてそれは固定的なものではなく創造していけるものと考えてほしい。それともう一点、国際社会との関係が示されていません。特にアジア、中国・インド・韓国との産業や仕事との係わり方の分析が全くないのはおかしいと思います。

委 員：子育てしやすいまちで売り出してほしいと思います。例えば、小野市は中3まで医療費が無料だそうです。加西市では小3で切れます。高齢者でも同じです。次にワクチンの助成についてです。小野市・三木市は早いのですが加西市はいつも遅いです。市民は敏感なので取り込めばアピールしやすいと思います。さらに、病児保育への支援があれば働きながら子育てしている人にとってはうれしいと思います。小児科医も必要です。加西市全体で見ますと小児科医が半分になっています。このようなところを整備すれば若い世代を引っ張ってきやすいと思います。

委員：行政サービスだけでなく、加西ならではの環境が重要です。幼児教育で自然にふれられることがあげられます。例えばある保育園では秋にどんぐりやすすきを集めてきて遊んでいました。そんな保育ができる地域は限られているので、そのよさは忘れたくないと思います。幼児教育はすぐに成果がでませんが、生活の中でずっと影響していくと思います。また世間では暴力行為や犯罪の低年齢化、子どもたちのコミュニケーション不足などが社会問題になっています。そのような面に対して加西市では感性を育てることができるまちだと思っています。

委員：この資料には、良いことが書いてありますが、誰がどうやっていくのでしょうか。指導はだれが行うのか。このままでは進みません。新聞で兵庫県の事業で仲人的なコウノトリの会について見ました。数百人の仲人を介して恋人づくりをしているということでした。嫁さん候補だけでなく、男性も多く、40～50代が中心だそうです。しかし加西市ではなかなか結婚のハードルが男女ともに高くなっているようです。加西市でもコウノトリの会に30人から50人で入っていかないと駄目ではないですか。

市長：市長もトップ営業します。

委員：外から来て住む人は、滝野町（現加東市）、福崎町が多いです。他所から来た人に加西市に住むようになった理由を聞いてみたらどうでしょうか。

委員：ワークショップでも話が出ていたと思います。

委員：加西市では子育て助成がありますよ、と市長がアピールしてはどうでしょうか。

委員：参加してみて素敵な人がいっぱいいることがわかりました。他の人がご存じないのはもったいないと思います。

委員：私は外から入ってきたのですが加西市の情報が少ない。外にアピールしてほしいです。

委員：個人的な話になりますが、息子のうち2人は田舎が好きなのですが、東京でストレスを感じて過ごしているのでよく加西市に帰ってきます。そのたびに癒されるようです。加西が何をすればいいかというと、北播磨で環境の先進地といわれているので、緑とため池を活かしていけばいいと思います。加西市を憩い

や安らぎ、うるおいを感じる場所するのはどうでしょうか。

会長：まとめると「加西ならではの」には、2つの問題があると思います。一つ目は観念的であるということ。あいまいさがあると思います。二つ目は加西市の悪いところも入ってしまうこと。たとえば「加西市の良さを活かした元気力の追求」とすれば元気力は量がメインになるので、そうではなくどちらかという質を重視していきたいと思います。もうひとつ、人口減少があります。2030年までに県内の30自治体の9割以上の自治体が減ることがわかっています。加西市でも例にもれず人口増加は難しいと思います。最近の総合計画では人口減少の中でどのようにやっていくかという縮小都市の考えになっています。加西市が縮小都市でやっていくのか、それ以外でいくのか今回いただいた意見を元に検討してください。このあと人口の話になります。将来人口と土地利用構想について事務局より説明をお願いします。

→事務局より資料説明

教育長：現在は、1.4人で1人の高齢者を支えています。やがて1人が1人の高齢者を支えることになると思います。平成53年くらいになると高齢者の60%が6大都市圏に住むようになると日経新聞に書いてありました。実際に地域に人がいないという状況が迫っています。加西市もやがてその波に飲まれるでしょう。そういう中で高齢者をどうするかが問題になってきます。しかし東京大学の学者が言っていますがこういう社会を想定した仕組みを日本では導入していません。あらためて直面する高齢者社会の中でどのような社会をつくっていくのかビジョンを示さなければいけないと言われていています。現実には高齢者問題を考えると、最も必要なことは65歳から75歳の8割は働けるので、その人が働ける仕組みを作る必要があります。これからの高齢社会に向けて、その人たちが培ってきた技能を活かす仕組みづくりが求められています。

委員：民生委員をしています。朝に1人暮らしの高齢者の家を窓からみて確認しています。私たちのまちでは65歳以上の方を対象に敬老の集いを町から助成いただいて開いています。65歳の夫婦、75歳の元気な方もいます。地域があたたかさを感じて身近に支えていかなければ今後は難しいと思いました。

会長：ありがとうございます。時間も過ぎていきますのでこれで一旦締めたいと思います。記入シートがありますので、そちらでご意見をいただければと思います。本日の委員会については以上になります。事務局にお返ししたいと思います。

5. その他

事務局：ありがとうございました。今回いただいたご意見につきましては、精査しまして次回までにまとめさせていただきます。次回は11月24日（水）に開催いたします。よろしくお願いいたします。

委員：終わってからですみませんが、実施計画はいつ上げられますか。

事務局：実施計画の枠組みは完成系ではないですが最終の3回目あたりにお見せすることができると思いますのでよろしくお願いいたします。

委員：例えば、未婚者の支援をだったらどういう支援が必要かという具体的な計画が必要かと思います。

事務局：同時並行でさせていただきますのでよろしくお願いいたします。他によろしいでしょうか。ありがとうございました。